

Deputy in the Italian Parliament, New York and London, 1914.

- (11) Modern Italy. By Pietro Orsi. London, 1899, and New York, 1900.

(12) 'It is true that from Shakespeare's time to Byron's Italy seemed to be dead. The foreigner who visited the peninsula was able to neglect its people, and to devote his attention solely to its monuments of art and archaeology, and to the beauty of its scenery. The Italian people seemed dead, but it was only in a state of lethargy, and when it awoke it once more accomplished feats that are worthy of Roman valour. So there came again, in Italy's history, a glorious epoch—the one, that we speak of as her Revival (*Risorgimento*).'

- (13) Pietro Orsi, Come fu fatta l'Italia. Conferenze popolari sulla storia del nostro Risorgimento. Opera premiata dal R. Istituto Lombardo di Scienze e Lettere. Seconda edizione. Torino—Roma, 1905.

岐阜縣產業史 神谷保朗編

大正五年三月發行(菊版二〇八頁)

本書は岐阜縣が神谷保朗氏に囑託して、同縣の三大工業と稱する織物陶磁器製紙の起源沿革を調査編纂せしめたるもの、製陶・製紙・機業の三編に分ち毎編首めに我國一般の變遷を叙して、後同縣に及ぼし、更に各主要産地の各説に移る。大體に於て編纂の體を得たりと謂ふべし。加之此種の史料の概して、闕乏を告ぐる間に、如上の記述をなせる著者の努力はこれを多とせざるべからず。本書は以上三業の歴史的概念を讀者に與へて、其共に古代より繼續せる祖先の遺業なること、特に近世に於ては彼等が官憲の壓迫や特權の專制の下に苦心經營相當の發達を續けて今日の隆運を招くに至りしことを理會せしむ。若しこれに依つて何程か地方人士を啓發し、斯業の向上發展に資するを得ば、本書編纂の目的は略達成せられたるなり。而

かも其記事、古代と近世とに稍詳密なるに拘らず近世發達の基礎を爲せる中世に於て簡疎なるは遺憾と謂ふべし。同縣の中美濃は京都に近く東西交通の要路に當りて、文化風に開けたれば、以上の工業も其由來極めて古く、殊に鎌倉時代に於ける茶の流行は製陶業の發達を促し、尾張瀬戸陶業の再興ともなれるなり。美濃に於ける製陶業が瀬戸と同一系統に屬するやいふ迄もあらず。而して更に東山時代以降戰國時代に京都を中心として各地方に茶趣味の勃興せることを思へば、其京都に近く且つ古き歴史ある當地方の製陶業に及ぼせる影響は決して鮮少にあらざりしならん。余輩は此點よりして天正二年始めて土岐郡に來任せりといふ加藤景光を陶祖となすの傳説に向つて慊焉たらざるを得ず。況んや景光以前に、瀬戸より駄知に移れりといふ同町の陶工惣九郎なるものあるに於てをや。(本書には惣九郎自筆の永享^{享の}八年—二〇

九六一未正月吉日竈納帳ありといへるも、永享八年は丙辰にして未にあらざれば、恐らくは永正八年(辛未の誤ならん)著者は之を措きて却つて後出の景光を陶祖となすの理由を揣摩して、後者が獨り信長の朱印を得、受領の稱號を許されたりしこと、土岐郡の製陶家が、悉く其同一血族なる關係よりする斟酌とに依りしならんとなすも、余輩は同國の製陶について尙ほ一層古き記録の散佚せるを思ひ、著者が陶祖の説に拘泥せずして、更に此方面の史料蒐集に一段の努力を惜まざらんことを望むものなり。次に製紙について、本書は當國の抄紙事業が南北朝時代以後引きつゞける、戰亂の打撃によりて全く絶滅せざる迄も、隆盛にして發達したりといふべからざりしならんと觀察し、就中土岐郡の如きは製陶業の影響を受けていつしか絶滅に歸したるものなるべしと斷せるも、事實は然らずして中世尙ほ贈造に美濃紙を用ゐられ、

戰亂の間にも絶えず盛んに抄製供給せられつゝありしなり。これ其生産地が古き歴史以外、戦塵の遠く及ばざる山間の村落なりしにも依るべし。然るに中世商工業の發達は製造と販賣との分業を促し、美濃紙の販賣の如きも、近江國愛智郡なる枝村が其本座となりて、他の紙商が諸國連上紙駄荷別役の名に於て一種の租税を坊城家に納むべき義務ありしに拘らず、美濃紙座のみは、京都なる寶慈院を本所として、朝廷及び幕府の保護の下に、京都を始め、美濃近江等諸國へ美濃紙の本場大矢田卿より受けたる美濃紙を販賣するの特權を得盛んに江州商人獨特の商業的手腕を發揮しつゝありしなり。抄紙の發達は其販路の擴張に基く事多し。著者は此重要なる誤脱を補修せざるべからず。最後に機業の如きも、美濃が伊勢と共に御服料國の一にして、彼庭訓往來に美濃上品・美濃廣絹の目を載せたるを見て、余輩は同時代に江州商人

の取扱へる所謂御服の仕入地の一は亦必ず美濃なりしかと思惟するものなるが、本書に於ては織田氏以前に遡るに由なきなり。但園太曆貞和四年十月廿七日東宮御元服の條に、美濃國廣絹解文云々とあるを本書に引て、當時其技術の觀るべきものあるに至りし證となすも、斯る文書は單に形式的のものなれば、これを以て技術の巧拙を卜すべきにあらず。然るに此種の研究はもとより地方史料の調査のみを以て能くすべきにあらず。余輩は縣下の産業史蹟を闡明して斯業の改善に資せんとする岐阜縣當局が更に充分の調査機關を備へて、本書の完璧を期せんことを望むと同時に、此機會を以て他の未だこれに着手せざる地方に向つても、完全なる地方産業史の編纂を慫慂せんとす。蓋し此種の編著の寄與するところ頗る多方面に亘りて營に一地方の當業者を裨益するに止まらざるべければなり。(價不詳)〔三浦〕